

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471504617		
法人名	エルダーサポート協会		
事業所名	グループホーム愛の郷 引野		
所在地	福山市引野町5丁目22-5		
自己評価作成日	平成24年10月3日	評価結果市町村受理日	平成25年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201		
訪問調査日	平成24年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所独自の理念、「一人ひとりを見つめた対応」「今までの生活を大切に」「食事の雰囲気作り」「楽しみの時間探し」「笑顔で優しい対応」を職員全員で取り組んでいます。まずは、ご本人ご家族様のご要望を聞くことから始まる事を第一として取り組んでいます。また、体調管理の面で生活表を使用し日々の体調管理はもとより食事量にも心掛けています。ご本人とご家族様の絆を大切に考え担当者が施設での暮らしぶりを少しでもお伝えするお手紙と写真を月に一送付しては？と職員と話し合い実施いたす予定です。地域密着型の根強い施設を目指して町内会活動への参加等交流を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム長を筆頭に職員の笑顔がこぼれアットホームな雰囲気が漂っている。玄関には利用者が活けられた生花が飾られ家族や外来者が訪問しやすい印象を受ける。利用者が生活に楽しみをもち、趣味や特技を活かしたメリハリある暮らしをして頂くために、ピアノや読書、三味線や書道等をされている。職員同志の関係もスムーズでお互いがよく理解し、気持ちをくみ取るにより信頼関係を強固なものにしている。画一的ケアではなく食事に関しても好みや希望を重視し、個別に臨機応変な対応をし、食事摂取に時間がかかってもゆっくりその人のペースで行われ、利用者や家族にとっても家族からも感謝の言葉が多い。法人理念にある環境整備に関して特に気を配り、清潔、整理、整頓が行き届いている。ケアについて向上心を持ち、今までの取り組みを維持しながら更に次の段階に向け改善部分を明確にしている。今後は更に家族との信頼関係が深まるよう努力目標とされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとして、今までの生活を大切に！という理念の下地域活動に取り組んでいる。おもてなしの心基本とし笑顔で接する様取り組んでいます。	日々の申し送りやカンファレンスで理念に基づいた運営が出来ているかを確認し職員も個々に意識を持ち日々のケアにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事の掃除、選挙、敬老会、文化祭等への参加、地域の中学生とも交流を行い、また、ホームでの行事のご案内を回覧板にてお知らせするなど地域と繋がりをもち暮らせる様取り組んでいる。	地域の中学生のチャレンジウィーク研修をきっかけに事業所行事(どんぐり祭り)に参加して貰い、又、地域の方からボランティアの紹介もして頂いたりと交流が深まりつつある。近隣からの理解のもと事業所は孤立することなく利用者が地域とつながりをもって暮らせている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、認知症の現状、進行防止のため取り組みや、対応ご家族様の負担軽減など話し合う場を設けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、回ごとにテーマをきめて実際の取組みを報告しアドバイスを頂きながらサービスの向上に努めている。	2か月に1回会議を開催し、参加者から率直な発言もある。事業所の取り組み状況を伝えたり、利用者や家族の意向も大切にされた看取り等の具体的な取り組みの話し合いも、参加者の様々な意見をサービスに活かすよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、また、困難事例等協力いただいています。施設のお便りも配布を行って協力関係を築くよう取り組んでいます。	電話や行政に訪問し不明な点についてアドバイスを頂き、運営に活かしている。生活福祉課等の方の訪問もあり協力関係はとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロへの手引きを参照にして、朝の申し送り、ミーティング等で話し合っています。玄関には施錠をする事なく出入りが自由に行えるよう取り組んでいます。	職員は利用者の人権を守ることがケアの基であることを理解し安全を確保した上で安定した生活に向けた支援を心掛けている。言葉の拘束について特に気を付けてお互いを振り返りながら日々取り組んでいる。事例を基に研修会を開催し徹底に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束・虐待委員会を設け言葉かけや虐待につながるような行為がないよう勉強会やユニットリーダーを中心に相談が出来るよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料をもとに勉強会を行っている。困難なケースについては、包括支援センターや市町村は相談を行い、対応にあたっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書に基づき説明をおこなっている。ご家族の意向や疑問に対してお聞きしている。また、普段より、要望等お話し合いを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設置し、気軽に要望が言えるよう努めています。また、今年度新たな取り組みとして本社主体にてご家族様アンケートを実施致しよりご要望に添えるよう取り組んでいます。	家族の訪問時直接意見を言われることが多い。意見や要望は書き留め改善策を検討している。法人の方針で家族アンケートを実施しサービスに向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティングで意見を話し合っている。本社には起案伺いの書類を通して提案を行っている。	職員の意見はその都度ユニットリーダーや管理者に伝えている。勤務に関することやケアについて個々の願いを聞き管理者は運営に反映させる取り組みをしている。改善されたことは職員に周知している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、自己評価を行い、個々に反省点や目標を決めて取り組み各自が向上心が持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による入社時の新人研修、2か月に1度のスキルアップ研修、資格別ミーティング、内部研修では普段の介助時に困った事を話合ったり、時には介助講習会を設けるなど行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターの小地域ネットワーク作りに参加している。定期的に愛の郷便りを配布して、付き合いが途絶えないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	極力、本人様に見学をして頂くと共に本人様より情報の収集を行っています。暮らしの情報という書式を使用して本人様の意向をお聞きし信頼関係を築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話でのご相談や見学時より情報の収集を行いご家族の困っていること、不安なことをお聞きし、ご要望に添えるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学には、必ず来て頂き施設の雰囲気を見て頂いた上で、ご本人、ご家族様の会話の中から必要とするしえんを見極めるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らしているという事を意識して掃除や洗濯、食事作り行い。また、余暇活動を通して関係を築く努力をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係が途絶えないよう、また、ご家族の負担とならない範囲で二人三脚で本人様を支えるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やご近所の方のお付き合いを大切にし、町内会の行事(敬老会、お祭り、地域神社への初詣)に参加し交流を図っている。	これまでの生活の延長線を持続できるよう利用者の願いに添うよう支援をしている。利用者の趣味を活かすことや帰宅願望の強い方には家族に了解のうえ自宅付近にドライブへ行くことや、知人へ便りを出すこともあり、関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う合わない方の把握を行いながらも、レクリエーションや生活の中で共に過ごして行ける場面を提供できるよう心掛けている。職員が架け橋となれるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長期にわたり契約解除された方には、必ず何かありましたらご連絡下さいとお伝えしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度、表情やしぐさの観察を行い、心の声に耳を傾けている。個々の生活を大切に家事や趣味など暮らし方の希望を把握して支援できるよう努力している。	利用者の希望で図書館を利用したり生け花、書道工作等関心のある事への協力支援をしている。意志疎通の困難な人の対応は家族からの情報や生活歴を把握して支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に事前にお聞きしていますが、生活していく中での気づきをお聞きしながら共有し今後のケアにいかしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活表を活用して、どんな事が出来き、どんな時出来たのかなど職員間で共有する。また、心身状態の観察を行い把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時、ご家族様に報告をしながら意向をお聞きして、また、日々の生活の中で課題やケアのあり方を話し合っています。担当者会議では現状に即した介護計画の作成に努めています。	家族の意見や利用者一人一人を深く観察し職員の意見を聞きとり、画一的でなく個々に沿ったプランを作成している。日々プランに沿ったケアがされているかを確認し、次のプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の体調管理、精神面等記録に残し、職員間で情報を共有し実践している。次回の介護計画に活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況に合わせ受診への付き添いを行っている。食事に対しても個別支援を行い代用品を提供するなど本人様ご家族様要望等叶えられるよう行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で活動されているボランティアの方々に生花教室や芸能、フラダンス等で交流を図り、町内会にも回覧でお知らせし参加頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の了承のもと、2週間の1回往診をして頂いています。他科への受診についても適切な医療を受けられるようご家族様と連携しています。	月2回の協力医の往診、訪問歯科が週1回の体制となっている。診察結果については医師が直接家族に伝えたり職員が伝えることもあり、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の情報、気づきを看護職に伝え個々の利用者の管理を行うと共に訪問看護ステーションの看護師とも連携を図りながら利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、地域連携室の相談員と連絡を取り合い、医師、看護師とも話し合いを設けている。また、月に一度便りを配布し関係が関係が途絶えないよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明を行い看取りの指針を立て医療に関して出来ないことも多々あるため説明を行い医師、訪問看護と連携を図りチーム支援に取り組んでいる。	看取りの経験がある。終末期について医師、看護師、家族、職員と方針を話し合い確認する。終末は家族が付き添うが無理な場合は職員が対処する。看取りの段階に入ったと医師が判断した場合看取りプランに変更してケアにあたる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに添っての勉強会やミーティング等で勉強会は行っているが訓練としては行っていない。マニュアルをわかりやすい場所に置いて急変時に備えるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消化・避難訓練は消防署立会の下年2回、隣接の小規模多機能と共に行っている。緊急連絡網も作成している。町内会へも呼びかけて協力を呼び掛けている。	消防署から色々な事例につき具体的に指導を受けていて、GH、小規模と合同で訓練を実施している。地元の方への協力も依頼している。訓練に参加できない職員は記録に目を通したり口頭で内容について聞いている。	今後について地域住民に災害に対する理解と協力をお願いを再度され、是非実際に訓練に参加して頂き具体的な方策や意見を頂くなどされ、協力関係の強化をされる事が望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の声かけや自尊心を傷つけるような言葉かけを行わないように、プライバシーに配慮している。敬語にとらわれずその場に合う声かけに心掛けている。	利用者への言葉かけは家族の要望を取り入れ、尊厳に注意した声かけとなるようになっている。排泄時や入浴時についても人前であからさまな対応せずプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の何気ない会話や表情を大切にし、心の声に気づくようになっている。利用者ご自身の希望を現実にも叶えられるよう働きかけている。常に自己決定ができるような声かけを行う努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務を優先に行う場面もありますが、利用者の日常生活リズムに合わせゆくりとくつろげたり、散歩や買い物等希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んで頂いたり、お化粧をされる方には鏡の用意、また、化粧落としのお手伝いをおこなっている。2ヶ月に1度の散髪や毛染め、パーマ等希望に添って支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	肉、魚の苦手な方に対しては代用品の提供を行い、席にも配慮し楽しみながら食事ができるように心がけている。食事の準備や片づけも出来る範囲で行って頂いている。	和食をベースにした食事メニューであるが個別に好みや偏食の方へもあらゆる方法を模索し食べて頂けるよう工夫をしている。全介助の方にも声かけを同じようにしてその人のペースで一休みされる方もおられるが焦らさずゆくりとされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューを工夫を行い、生活表を活用し食事量、水分量を把握している。利用者の習慣をお聞きして、佃煮、ヤクルトなど提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	健康はお口の中を念頭に置き、食後の歯磨きの声かけを行うとともに、介助の必要な利用者に介助を行っています。ハミングットを使用して口腔内の清潔を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活表を活用して、利用者の排泄パターンの把握に努め日中、夜間に問わず排泄の声かけを行い、トイレ誘導やポータブル介助を行っている。	オムツ減らしに工夫を凝らしている。個々の状態やパターンを把握し、前誘導でトイレやポータブルを使用し気持ちよく排泄出来るような支援を心掛けている。運動を行い出来る限り自然な排便となる配慮もされ、職員の努力は大きい。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段の食事でも繊維質の多い野菜を提供したり、ヨーグルトやバナナを摂って頂き、便秘にならないよう心がけています。薬による排便コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日にとらわれず入浴できるよう行っている。利用者の体調に合わせてリラックスして入浴が行えるように支援している。	職員の細やかな声かけと連携をとり、日々の利用者の体調や気分に合わせて入浴されている。特浴の設備も完備され一般入浴が難しくなっても入浴できる設備が整い、清潔が保たれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握し休息と活動のバランスをとりながら対応している。また、居室で一人過ごすことが寂しいと話される方にはホールのソファに過ごして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師による薬情報や副作用などの説明を行い職員で共有できるよう行っている。また、向精神薬を服用されている方には医師と連携を図り特に注意を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握して、洗濯干し、畳、トレイ拭きなど手伝って頂いている。嗜好品についても体調に合わせて楽しんで頂いている。読書好きな方にもゆっくり読書が楽しんで頂けるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や図書館、ドライブなど一人ひとりに合わせ、また、ご家族とも相談しながらがが外出支援を行っています。町内会行事など地域の方の協力を受けて支援している。	敷地内の散歩を行い外気浴に心掛けている。買い物支援、地域行事参加、初詣、花見、道の駅散策等無理のない外出と気分転換支援に取り組んでいる。小グループで出かけることもあり、その時に適した外出をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の要望を踏まえた上で、ご家族様と相談して一度の買い物で使えるお金を決めて支払いの時にご自分で払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の繋がりを大切に出来るよう、電話や手紙のやり取りをご家族様協力の下行っている。今後、担当職員に施設での暮らしぶりを手紙にしてお伝え出来ればと計画している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁には、季節を感じられるような掲示物を飾り、玄関には利用者が生けたお花を飾っています。空調には配慮して居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	法人理念にある環境整備に力を入れられ、共用の場は利用者に暮らしやすい場所となっている。玄関には利用者の活けたお花が飾ってあり季節を味わったり利用者の力を引き出す工夫がとりいれてあり温かみの感じられる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを準備して、利用者同士の憩いの時間がもてたり、少し、横になって休めたりといった居場所づくりに心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、ご自宅で使用されていた馴染みの品を持って頂いたり、ご本人、ご家族様と相談しながら心地よく過ごして頂けるよう配慮している。	利用者の趣味のものや馴染みのものが持ち込まれレイアウトも個々の状態や好みを把握し、居心地の良さそうな居室であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分のお部屋が分かるよう表札を付けている。また、安全かつ自律出来るよう家具を配置し、車いすや歩行器の位置の工夫をおこなっている。訪室時には、安全の確認を行うようにしている。		